

2023年10月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



テーマ 市町村のマーク

合併前4市町村と新上田市のマークを身体で表現  
旧武石村村章



審査員の皆さんも仮装して採点

## 第7回 集まれ!仮装大賞

すっかり恒例となった武石風土つなぎ隊主催の仮装コンテスト「仮装大賞」が9月17日(日)武石地域総合センターホールで開催されました。

7回目の今回は全国的にも注目を集め、テレビの仮装大賞の出場経験者8組(県内、福岡県、宮城県、岐阜県、東京都)など計12組が出演し、それぞれに知恵を絞った仮装が披露され20点満点が続出しました。遠路出演された皆さんは「テレビと同じ装置・演出で、クオリティーが高い」

と驚いていました。運営には滝澤和広総監督、司会の櫻井奨さんを始め30名の長野大生など大勢のスタッフが当たりました。

イベントが新聞やテレビで紹介されたこともあり、武石地域内外から150名を超える皆さんが来場、ホールには笑いがあふれました。主催者の柳沢裕子さん、清住洋子さんも阿佐ヶ谷姉妹に扮して審査員に加わり、会場を盛り上げるとともに出演者の仮装を楽しんでいました。

(4ページに全演技紹介)

## 子ども食堂開設

9月22日(金)、かじかや手打ちらーめんで「子ども食堂」が行われました。

かじかや店主の児玉篤人さんは、子供の居場所づくりの取り組みの一環として、この日、かじかやの店舗において子ども食堂を開きました。

長野大学生5人のボランティアとともに午後3時から準備をはじめ、4時半ごろから5組の親子などに食事(この日はカツカレー)を提供しました。

子ども食堂は食事のほか、一緒に遊んだり学習支援なども行うことも計画して、これからも月1回のペースで開き、次回は10月28日(土)の風

土つなぎ隊のおさんぽギャラリーに合わせて行いたいとしています。児玉さんは、「食の大切さを思ってもらいたい、食品ロスをなくす取り組みにもつなげていきたい」としています。

また、余裕のある方には、野菜や食材の提供、運営費のカンパなどの協力をお願いしたいと話しています。



カツカレーおいしかった

## 上田市防災訓練が武石で開催

9月2日(土)、上田市の防災訓練が武石総合グラウンドと体育館周辺で行われました。市の訓練は毎年各所で順番に実施してきましたが、コロナ禍で4年ぶりの開催となり、今年は武石地区で行われました。

会場では大規模地震や土砂災害などが発生した



との想定で、消防、警察、自衛隊、医療・福祉など35の団体が参加し、救出・救助救命、避難所開設、給水・炊き出し、電力・通信等の仮設、ボランティアセンター設置など各種の訓練が行われました。武石地域の各自治会からも5～10人、計150人の住民が土のう作りや救援物資運搬訓練を行い、AED操作や震度7地震の体験をしたり、倒壊家屋・車からの救出訓練などを見学しました。

今年は10万人以上が死亡したとされる関東大震災から100年の節目の年にもあたります。近い将来発生確率が高いとされている糸魚川-静岡構造線大断層上の地震の場合、武石地域は震度6、長野県の死者は7000人以上という想定もあります。過去に被災した地域の話では、救出など非常時に一番有効なのは、隣近所の人からの情報とのこと。改めて普段から地域コミュニティづくりに努め、個人も地域でも災害に対する備えを心がけましょう。

## 武石夏祭りに参加

8月12日(土)、武石の夏祭りが4年ぶりに開催され、住みよい武石をつくる会も産業経済部会とふれあい交流部会がブースを設けて参加して祭りを盛り上げました。

厳しい暑さの中行われた武石夏祭に、産業経済部会・ふれあい交流部会合同で参加させていただきました。産業経済部会が栽培した焼きもろこしとじゃがバターのブースでは、300名以上のワクワク顔を拝見させていただきました。また帷とほりが降りると紅葉のように山を染める花火の彩色をみなさん楽しんでおられました。

(ふれあい交流部会長 依田 享敏)



焼トウモロコシ好評でした

## 武石敬老会開催

9月9日(土)、2019年以来4年振りとなる武石地区社会福祉協議会主催の「武石敬老会」が、総合センターコミュニティホールで開催され、招待された121名が出席しました。

式典では、本年100歳を迎えた方の代表として沖の池内寛子さんへの祝い金の贈呈、依田窪南部中学校吹奏楽部の演奏や武石小学校6年生のビデオメッセージが披露され、酒井武石地域自治センター長、地元市議会議員の祝辞や上平征男武石シニアクラブ会長のあいさつがありました。

8月末にコロナ医療警報が発令されたため、残念ながら祝宴は取りやめになりましたが、JA武石フラダンス教室の皆さんやカジカムジーカユニットによるピアノとトランペットの演奏、イントロクイズなど楽しく工夫されたアトラクションで会場が笑顔で包まれました。



武石地域自治センターによると、武石地域で本年100歳を迎える方は9月現在8名(上田市では91名)とのことです。

先輩方がこの武石の地で培ってきた貴重な足跡を次の世代がしっかりと受け継ぎ、更に発展した郷土づくりに務めることは我々に課せられた大きな責任であることを、あらためて心に刻む機会となりました。

## 武石八景看板設置



9月29日(金)、つくる会自然生活環境部会では、計画的に設置している武石八景の5つ目の説明看板を、下武石の大宮諏訪神社に設置し、七ヶ自治会・氏子代表、自治センター長等に出席していただき除幕式を行いました。

八景は、江戸時代の1800年代初期に上田藩郡奉行の相馬与右衛門が武石の風光明媚な場所を詠んだもので、大宮社は、おごそかで気高い雰囲気

いく代をか契り置きけん瑞垣の  
常盤堅盤に茂る松の根

と詠まれました。

## さわやかな美ヶ原で太極拳体操

9月3日(日)、つくる会健康福祉体育部会は、「美ヶ原高原で健康体操」を行いました。部会ではこれまで健康づくり活動として主にウォーキングを実施していましたが、足腰の弱っている人でもできる運動として計画したものです。

20名の参加者はバスで美ヶ原台上まで行き、眼下に「ふるさと武石」の家並みを眺めながら体操を行いました。講師は、毎週金曜日に太極拳を教えている矢島榮子さんで、基礎運動を中心に指導していただきました。



# 第7回 集まれ! 仮装大賞

優勝

3位

準優勝



**「最近の流行りもの」**  
侍ジャパン  
大谷から胴上げまで一人で再現



**「夫婦でなぞかけダジャレ」**  
オオタニサーン! は太田冒散?



**「大根採ったどおー」**  
立派な「おみ足」と「おしり」でした



**「武石郵便局長賞」**「木魚」  
ポクポクポク・  
声帯模写が絶妙



**「おふくろさん」**  
森進一の唇が不気味



**「知らなきや仏像」**  
鳥屋の道祖神、小沢根の不動明王を  
みんなに知ってもらお



**「相撲」**  
宮城山対長野山、勝ったのは?



**「武石の夢」**  
自治センター職員が武石を紹介



**「蚕の一生」**  
身体でかわいい蚕を紹介したかったのです



**「不思議な水の塗装」**  
ん? ロスプレーで塗装?



**「マツケンサンバ」**  
家族みんなでマツケンサンバ

# 第21回 たけし歴史さんぽ道

## 大平の経塚と板碑 I

郷土史家 見玉卓文

大正5年(1916)、小県郡役所から『小県郡史』の編さんを委嘱された堀之内の小山真夫さんは、精力的な調査・研究の結果、同11年(1922)に郡史を完成させました。その前後の調査記録は、「小山真夫調査野帳」として上田市の有形文化財になっています。

最近、丸子町誌編さんのためコピーをした小山真夫調査野帳の中に『武石村誌』で見落としていた情報を見つけました(図1)。

遺物の実測図で、「武石村鳥屋区字大平出土板碑」と表題があって、「昭和十年六月、大平シンキヤウ塚ヲ発掘シ、内田八郎氏青石ヲ発見シ保存ス、同十一年五月廿日同氏ヲ訪ヒ之ヲミルニ板碑ナリ、ヨリテ同氏ヨリ贈ラルモノ」と書かれています。



図1 小山真夫野帳の図と文

た土盛りで、お経を後の世に伝えるという行いにより極楽往生を願ったもので経塚と言ひ、藤原道長の時代から室町時代まで作られました。

紙に書かれたお経を金属の筒に納めて埋めた経塚、石に経文を書いて埋めた経塚もあり、小さな石に一字ずつ書いたものは一字一石経、何文字か書いたものは多字一石経などと呼ばれています。

藪合に石経という地名と、石経堰と呼ぶ用水路がありますが、石に書いた経塚があったのではないかと思います。

「シンキョウ」の意味はなんでしょう。小山さんは古い経塚に対する新経塚ではないかと考えていますが、地元では般若心経を埋めた心経塚ではないかと言っていたようです。下本入の茂沢の奥に「心経滝」と呼ばれる滝があり、これも含めて気になります。



図2 小山の東側からみた「大平」、背後の山は鳥屋城

板碑とは、板状の緑泥片岩(秩父青石)を図3の様<sup>りよくでいへんがん</sup>に造りだした卒塔婆<sup>ちちぶ あおいし</sup>の一種の供養塔で、墓石の意味も持つようになり、鎌倉~室町時代に限って造立されました。

大平のものは、山形頭部の下に二条の切り込みや円(月輪)がありませんが、刻まれた文字は図3と同じ梵字<sup>ほんし</sup>で、キリクと読み、阿弥陀如来を表しています。欠損している下部は、図3を簡略した形で全長60cm程になると思われます。

板碑は武蔵国で作られ始め、信濃には完形品、あるいはそれに近い形で上野を経由して運び込まれたと思われる、県内には約100基あり、上田・小県地域では18基が知られています。

中丸子長泉寺の1基は、鎌倉末期の元応2年(1320)の銘があります。塩川南方の2基は摩滅が激しいのですが、鎌倉末期と推定されています。上室賀原田(五位塚)には、全長160cmで、建治年間(1275~78)と読み、県下最大級・最古のものを含め3基あり、同じく原では上半を欠くもの1基が発掘されています。上塩尻元宿の信福寺跡では、江戸時代に10基の板碑が出土しましたが、紀年銘は嘉元2年(1304)から宝徳4年(1452)まであります。秋和亀田では路傍で断片が見つかった記録があります。

武石には江戸時代以前の史資料がほとんどありません。この板碑と経塚はとても重要な資料です。経塚は大平のどこにあったのでしょうか?内田八郎さんのご縁の方、あるいは塚をご存じの方がいらしたら是非教えてほしいと思います。

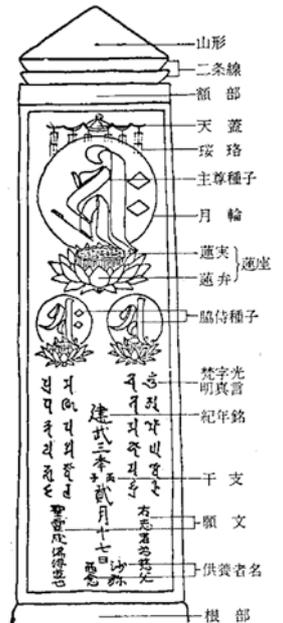


図3 板碑部分の名称

武石を盛り上げる  
人々グループ紹介

# 武石の人々 団体



## 信州魚の宿 ツーリスト美乃和 代表 箕輪 秀昭さん

ツーリスト美乃和は、依田窪南部中学校の川向いの武石川沿いにあり、約3000坪の敷地の中で、信州の豊かな自然と地元食材を使った美味しい食事を満喫することができる宿として、観光やビジネスのお客さんから高い評価を得ています。

元々は、秀昭さんのお祖父さんがこの地に「釣り堀 みのわ園」を始めたのが最初のことですが、その後、食堂や民宿を開設、隣接した土地を造成してゲートボール場(後にマレットゴルフ場)を造り、さらにこの場所をオートキャンプ場、バーベキュー場に改装するなど、秀昭さんの家族三代に渡り事業の拡大を図って来たそうです。



コロナ禍で、毎年受け入れていた学校の夏季合宿が中止となり、団体客は大きく減少しましたが、一般個人の観光やビジネスのお客さんはほぼ変わらずに来ていて、今年のゴールデンウィーク明け以降の動きは非常に良いとのことでした。

美乃和さんは、バイク乗りの中では聖地のようになっているビーナスラインへの通り道にある宿として人気で、ツーリングバイクのお客さん向けの特別宿泊プランもあり、一般個人のお客さんの3分の1

はバイクのお客さんとのことです。

美乃和さんの一番の売りは美味しい食事で、料理につかう食材にはこだわりがあります。

川魚は敷地内の池で養殖した虹鱒、自家製の摘みたて野菜やハゼかけ米など新鮮で美味しい食材を使用し、足りない食材だけ地元産を買って使うなど、自家製および地元産にこだわった食事作りをしているそうです。



秀昭さんが日頃大切にしていることは、「ウエルカム(歓迎)の体制を作り、お客さんに満足してもらえるサービスを提供すること」と話していました。

また、「長野に来たら必ず寄ってくれるお客さんなど、何回も美乃和に足を運んでくれるお客さんがいて、とても嬉しいです」と話していました。

「少人数での食事会は、要予約ですが対応できますので、地元の皆様のご利用をお待ちしています」とのことでした。

## 信州魚の宿 ツーリスト美乃和

上田市武石沖565-2  
電話：0268-85-2539  
HP：<https://yadominowa.com>



ホームページ  
QRコード

ツーリスト美乃和

検索